



地方独立行政法人
りんくう総合医療センター●院外・院内広報

NICE 秋 SMILE

2016 VOL.67

発行・責任者：広報・年報編集委員長 森朝 紀文
〒598-8577 大阪府泉佐野市りんくう往来北2番地の23
TEL072-469-3111(代) FAX072-469-7929
<http://www.rgmc.izumisano.osaka.jp/>

表紙写真

「国宝 慈眼院多宝塔」Photo by 辻 佳代子氏

秋の夜長に思うこと

地方独立行政法人りんくう総合医療センター
大阪府泉州救命救急センター
副病院長兼救急診療部長

松岡 哲也

「私、失敗しないので。」
大門未知子先生のように、言い放つてみたい。そんな風に思ったことのある医師は、私だけでしょうか。この名セリフで人気の高いドラマ『ドクターX〜外科医・大門未知子〜』のシリーズ第4弾が今秋放映されています。

しかし、言ってみたくも言いたくない矛盾しますが、これ程、危険な言葉もありません。常に新しい知見が積み重ねられ高度化する医療の世界においては、医療者は、(もしかしたら)「失敗するかもしれない」という謙虚な考えの下で、日々、知識と技能の習得に精進しなければなりません。また、医師だけでなく多くの医療技術者が複雑な治療プロセスに関わる医療現場では、あちこちに失敗の危険があります。従って、私達は、1件の重大事故(アクシデント)の背後には、数十件の軽度の事故、数百件のそれらを引き起こし得る状況(インシデント)が潜んでいると認識して、安全でない行動や状態を予防することで、重大事故の起こるリスクを減少させるよう努力しています。

「難しくてもよく分からなければから専門家がお墨付きをくれたらいいんだ。」と思われるのも解らないではありません。日本人のメンタリティや歴史的社会の中での関係性の影響もあり、未だ難しさもあります。病気の治療やリハビリ、その後の介護などは、まさに生活そのものの問題です。従って治療方針については、よく納得された上で、ご自身の意志で決定していただくことが益々大切になってきています。私達は、それをしっかりと支援させていきたいと思っています。

当センターでは、多職種連携体制に基づくチーム医療による総合力で、信頼と納得の医療を患者様に提供することを目指しています。

米倉涼子の颯爽とした姿に惚れ惚れしながら、「失敗するかもしれない」という謙虚さと危機意識の下、しっかりとリスク管理をし、「失敗しない」と思える自信を持つて、患者さんの納得と信頼を得られる最善の医療を提供できる病院として、改革と努力を怠らないことを、肝に銘じる秋の夜長です。

「絶対」という太鼓判を求められる場合があります。不安なお気持ちは理解できますし、

「難しくてもよく分からなければから専門家がお墨付きをくれたらいいんだ。」と思われるのも解らないではありません。日本人のメンタリティや歴史的社会の中での関係性の影響もあり、未だ難しさもあります。病気の治療やリハビリ、その後の介護などは、まさに生活そのものの問題です。従って治療方針については、よく納得された上で、ご自身の意志で決定していただくことが益々大切になってきています。私達は、それをしっかりと支援させていきたいと思っています。

CONTENTS

表紙写真 / 「秋の夜長に思うこと」松岡哲也	1	入院中のお食事について / 地域医療懇話会 / 西池さん受賞	4
理事長メッセージ / 部署紹介①「輸血部」	2	連携施設紹介「釈迦戸医院」「あしたば薬局」	5
医師紹介 / 森朝部長受賞 / 部署紹介②「医師事務作業補助者」	3	土日リハ開始 / ふるさと納税 / 編集後記 / 人権標語	6



理事長メッセージ

新たな2025年問題

平素からりんくう総合医療センターの診療・運営には多大なご支援とご理解を賜り、心から御礼申し上げます。

さて、2025年が人口問題、社会保障問題の重要課題として取り上げられて既に10年以上が経過し、医療・介護の領域では、それぞれの地域における地域包括ケアシステムの構築が最重要課題になっています。

その前に、2020年には東京オリンピックが開催されますが、会場問題などの課題の背景には常に予算高騰問題が潜んでいるのは困ったことです。

また、ごく最近、2025年の大阪万博開催に向けて、安倍首相が博覧会国際事務局への申請を検討するという記事がありました。府が提唱するテーマは「人類の健康・長寿への挑戦」で、大阪の経済発展のためのみならず、将来の医療にとっては大変素晴らしいニュースかもしれません。しかしながら、主眼はどうかや医療や医療システムそのものではなく、第4次産業革命と言われるロボットや人工知能の開発に関連付ける産業育成、経済振興にあるとの話もあります。経済振興は国内外を問わず、常に最重要課題であることは否定できませんが、健康と長寿の促進への重要なツールであるべき昨今の新しい高価な医薬品、医療機器が医療費高騰の一つの要因になっていることを踏まえると、ある意味で現場の医療をさらに苦しめることにならないかが少し気になります。

いずれにせよ、この困難な時期を乗り切るために、りんくう総合医療センターにおきましては引き続きこの南泉州地域の医療を守るための最後の砦としての自覚をもって改革にあたり、同時に、皆様方とはタッグを組み、強固な連携を実現させ、この困難な時代を乗り切りたいと考えております。

今後とも、皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げます。

地方独立行政法人 りんくう総合医療センター理事長

八木原 俊克



輸 血 部

輸血部長 福島 健太郎

当輸血部では、「良質で安全な輸血」を実践するため、血液型判定をはじめとする輸血関連検査や血液関連製剤の管理等をおこない、輸血医療全般に関する運営、管理、教育を行っています。輸血部長（医師）・技術職員4名（常勤1名とし、3名が他と兼務しながら4名で担当）で構成しています。当院では救命センター、周産期センターや集中治療室（ICU）等で大量出血を伴う症例や、血液内科における造血細胞移植や高度の血小板減少等の症例に対応できるよう、検査科の一部門として24時間体制での輸血業務をおこなっております。

直近数年間では輸血関連検査は外来、入院共に前年度より件数は増加しており、血液製剤の使用数は赤血球製剤（RBC）、新鮮凍結血漿（FFP）はやや減少して、血小板製剤（PC）は増加しています。2015年は小児科からの要望を受け、ABO不適合検査を24時間体制とし、迅速に結果報告を行っています。また、当院における「宗教的な事由等による輸血拒否」に関する対応を策定し、2014年末より運用を開始しました。

輸血製剤は日本赤十字社より供給された献血血液由来の貴重な医療資源であり、製剤の有効利用が重

要となりますが、当院における血液廃棄率は低い水準にあり、今後も適正使用に努めてまいります。

また血液内科では血縁者間・非血縁者間の造血細胞移植が再開され、泉州救命センターにおけるクリオプレシプレートの内作成の開始が計画されており、院内における輸血部門の重要性が高まっているといえます。今後も各診療科の診療の支援が出来ますよう、安全で確実な血液関連部門としての役割を果たしていく所存です。皆さま何卒よろしくお願ひ申し上げます。



輸血部スタッフ

部署紹介①

新任医師紹介

ICU/CCU部長兼
心臓血管外科部長
船津 俊宏



このたび、平成28年7月1日付けで、りんくう総合医療センター心臓血管外科部長として赴任いたしました。

私は、大阪大学医学部附属病院、桜橋渡辺病院、国立循環器病センターなどで心臓血管外科の修練を積みました。平成20年からは約8年間、前任地の大阪労災病院にて心臓血管外科副部長、部長として勤務し、心臓、大動脈手術全般を執刀して参りました。心臓や大動脈の手術は、生命の危機に瀕した患者を劇的に改善させる治療力をもっています。

地域の実地医療の先生方、当院循環器内科や当院救命センターと連携をとって、泉佐野・泉南地域の心臓血管疾患に対する手術治療に尽力し、地域の皆様のお役に立てるよう頑張っ参りたいと思っております。どうかよろしくお願いたします。

第54回全国自治体病院学会
薬剤科森朝部長が最優秀演題賞を受賞しました



森朝紀文薬剤科部長が、第54回全国自治体病院学会最優秀演題賞を受賞しました。

演題名「薬薬連携における残薬調整による医療費削減効果の検討」で、富山県にて授賞式と受賞講演が行われました。



部署紹介②

医師事務作業補助者



▲外来補助風景

医師事務作業補助者は、その名の通り「医師」の「事務作業」を「補助」する仕事です。増え続ける医師の事務作業を軽減することを目的に2008年に導入された、まだ新しい職種です。

現在当院では約35名の医師事務作業補助者が17の診療科に配属されており、その業務内容は、外来診療におけるカルテの代行入力や検査説明・予約等をはじめ、これまで医師が行っていた診断書の作成代行、入院診療補助業務、診療に関わるデータ入力、学会の準備、文献検索などの研究補助等、多岐にわたっています。あらゆる業務はすべて医師の管理のもと医師に代わって行っており、外来や病棟・医局など院内の様々な場所で日々医師をサポートしています。

私達の課題のひとつとして、まだまだ新しい職種である医師事務作業補助者の存在をいかに患者様に理解していただくということがあります。当院では医師事務作業補助者は白衣を着用しているため、患者様の中には私達を医師や看護師と思われる方も多くいらっしゃいます。そのため、診察場に同席することの多い私達が「誰であるか」を患者様にお知らせすることの必要性を感じ、私達の業務内容、そして実際に当院で働いている医師事務作業補助者の声を紹介するためのポスターを

作成しました。簡潔な内容のポスターではありますが、私達の存在をより身近に感じてもらえることができたらの願いを込め待合室に掲示しています。受診された際に、ご質問や不安に思われることがありましたら、遠慮なくお声をかけていただければと思います。

これからも私達医師事務作業補助者は、患者様の診療がスムーズに運ぶよう願って、医師のサポートを通じてチーム医療に貢献していきたいと思っております。今後ともよろしくお願いたします。



▲医師事務作業補助者ミーティングにて



紹介ポスター▶



入院中のお食事について

栄養管理科



調理師おすすめの逸品メニュー

- ・夏野菜のアラビアータ
- ・冬瓜の冷製スープ
- ・カレー風味のポテトサラダ
- ・ガーリックトースト
- ・季節のフルーツ

りんくう総合医療センター栄養管理科では、治療食の一環として入院中の患者様に安全で安心なお食事を提供させていただいております。その内容は一般食から糖尿病・腎臓病・心臓高血圧食(減塩食)などの特別治療食や妊産婦食、嚥下食など数十種類に渡り、アレルギーや食欲のない方などへの個別の対応も行っています。特別治療食では入院中実際に治療食を召し上がっていただくことで食事療法への理解を深め、退院後の食事に役立てていただけるように献立を工夫しています。ご希望の方には病院食の献立表もお渡ししています。一般食では日々献立の検討を行い、夕食の選択メニューや月に一度の調理師こだわりの逸品メニュー、季節感あふれるイベントメニューなど食事時間を楽しみにしていただけるようにスタッフ一同取り組んでいます。



妊産婦食メニュー

妊産婦食は2016年6月より献立・食器の全面リニューアルを行いました。



●●地産地消の取り組み●●

当院では、入院給食に泉州産の旬の野菜を使用しています。毎月ホームページでお知らせしています。是非ご覧ください。



11月入院給食に使用する地元野菜は

- ・人参
- ・キャベツ
- ・小松菜

です!

第5回 りんくう地域医療懇話会

りんくう総合医療センター副院長兼 地域医療サービスセンター長 永井 義幸

平成28年10月27日(木)『第5回りんくう地域医療懇話会』(於:スターゲイトホテル関西エアポート)を開催いたしました。

今回は、テーマを「地域包括ケアシステムの構築に向けて」と題して登録医の先生方をはじめとする近隣の関係者の方々にご参集いただきました。

第1部では、長崎県のあじさいネットの発展に大きく寄与された 柴田 真吾先生をお招きし、基調講演にて医療連携の今後の展開やヒューマンネットワークの重要性についてご講演いただきました。

その後、泉佐野泉南医師会の野上 会長、伊藤理事らとともに、パネルディスカッションを行い、泉佐野泉南医師会圏域での医療連携や当院が果たすべき役割などについてディスカッションし、関係者で情報共有いたしました。



▲基調講演の柴田 真吾先生

第2部の懇親会は、登録医をはじめとする関係者の方々と当院のスタッフが顔を合わせる貴重な機会となりました。総勢200名を超える参加をいただき、盛会のうちに終えることができました。今後とも地域連携をますます深めていけるよう努力してまいります。変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

▼パネルディスカッションの様子
パネリスト:
野上会長、伊藤理事、
柴田先生、永井副院長
進行:松岡副院長



▲第2部 懇親会



放射線技術科 西池さんが

第44回日本放射線技術学会秋季学術大会「大会長賞」を受賞しました

受賞内容:大会長賞 受賞演題名:エビデンスから考える外傷全身CT撮影技術
受賞者:西池 成章(放射線技術科 主査)

○学会名:公益社団法人日本放射線技術学会 ○大会名:第44回日本放射線技術学会秋季学術大会
○会 期:平成28年10月13日(木)~15日(土) ○会 場:ソニックシティ(さいたま市)



りんくう医療ネットワーク 連携施設の先生のご紹介

連携施設の先生をご紹介しますコーナーです。
当院では、「かかりつけ医」と連携し、地域ぐるみで質の高い医療サービスを推進しています。

釈迦戸 医院

院長 釈迦戸 晃

〒598-0034 大阪府泉佐野市長滝909-1
TEL: 072-465-4180 FAX: 072-465-3644



【診療科目】内科、呼吸器科、小児科、皮膚科

【受付時間】(午前)9:00~12:00 (午後)18:00~20:00

	月	火	水	木	金	土	日
午前	○	○	○	○	○	○	×
午後	○	○	×	○	○	×	×

当院は、昭和24年に泉佐野市長滝の地に、先代の父親が開院いたしました。今年で67年目を迎えております。私自身は、昭和55年、名古屋の藤田保健衛生大学を卒業後、聖隷三方原病院で結核病棟医長を務めるなどを経て、平成3年から、生まれ育った長滝へ戻り、釈迦戸医院の診療に携わっております。早いもので、私がこの地で診療を開始して25年目になります。専門領域は呼吸器内科で、主にCOPD(慢性閉塞性肺疾患)や肺がんの臨床や研究をしてまいりました。開業してからは、小児科、泌尿器科、皮膚科等、実地臨床を種々の講演会や父から指導を受け、今では、内科疾患全般の診療を提供しております。

各種の予防接種にも対応しておりますし、必要に応じて在宅医療にも取り組んでおります。特に制限を設けることなく、ホームドクター(かかりつけ医)として地域に根ざした何でも気軽にご相談いただけるような医師を目指しております。

その他、医師会活動や学校医、介護保険審査会、結核検診などいろいろな地域活動にも協力しております。

診療時間以外は、ゴルフ、車、旅行を趣味に地域での生活を満喫しております。

地域の中核病院であるりんくう総合医療センターとは、よく連携させていただいております。今後はこれまで以上に連携を深め、より良い地域づくりに努めてまいりたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



あしたば薬局

管理薬剤師 池 喜章

〒599-0205 大阪府阪南市新町51-2



【営業時間】(平日)9:00~19:00 (土曜日)9:00~13:00

	月	火	水	木	金	土	日
午前	○	○	○	○	○	○	×
午後	○	○	○	○	○	×	×

TEL: 072-470-0255 FAX: 072-470-0266

みなさん、こんにちは。

私は「あしたば薬局」管理薬剤師の、池 喜章と申します。

あしたば薬局は阪南市の新町に2010年(平成22年)8月開局の比較的新しい薬局で、りんくう総合医療センター、阪南市民病院をはじめ、主に地域の病医院の処方箋調剤、OTC(一般用医薬品)や健康食品の販売等を行っており、さらに地域の皆様の健康に貢献できるよう、お薬を始め、様々な健康に関する相談にも積極的に応じております。

今後高齢者の数が急増し、それに伴って在宅で療養される方も多くなることが予想されておりますが、当薬局でも近隣の病医院の医師、訪問看護師さん、ケアマネージャーさんと密接に連携を図りながら薬剤師による在宅訪問にも積極的に取り組んでおります。

国、各自治体は、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい

暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス体制「地域包括ケアシステム」の構築を推進しておりますが、当薬局もその中で地域への積極的な貢献、また地域住民の方々から必要とされる「かかりつけ薬局」、さらには病気や怪我の薬物治療のみならず、その予防や健康のサポートに貢献する「健康サポート薬局」をめざしてスタッフ一同頑張っておりますので、今後ともよろしくお願い致します。



平成28年
9月25日
より

土日リハビリテーションを開始しました



リハビリテーション科では、これまで土曜日は一日、日曜日は午前半日でのリハビリテーション提供体制をとっておりました。周術期の患者さんを中心に土曜日は約150人の患者さんに日曜日は約60人の患者さんにリハビリテーションを提供してきました。

多くの患者さんのニーズにお応えするため、平成28年9月25日より日曜日もリハビリテーションを一日中提供できる体制を整えました。これにより、土曜日、日曜日とも約150人の患者さんにリハビリテーションを提供できる体制となりました。これまで土曜日、日曜日は、術後早期の患者さんに対するリハビリテーションを中心に提供しておりましたが、新たな体制では、周術期の患者さん以外の多くの患者さんにもリハビリテーションを提供できるようになりました。

今後は、人員補充とスタッフ教育を実施しながら祝日の一日体制の構築を進めていく予定としております。一連の体制強化により多くの患者さんのニーズに応えるとともに、医師、看護師との連携をはかりながら患者さんの一日でも早い退院に貢献できるように努力をしていきたいと考えております。

リハビリテーション科 藤野文崇・榎谷昭一

泉佐野
ふるさと
納税

りんくう総合医療センターへの 応援寄附金のお願い

当センターでは、泉佐野ふるさと納税の制度を活用して、当センターへの応援寄附金を募集しております。

この度、寄附の使途として、医療に関する分野「メディカルプロジェクト」が新設されました。その項目を選択していただくと、寄附金の一部※がりんくう総合医療センターの病院運営に活用される仕組みとなっております。

ぜひ、泉佐野ええもん(特産品)をお楽しみいただき、りんくう総合医療センターを応援くださいますようよろしくお願いいたします。

(※お礼の品等の所要額を除く)

申込方法と払込方法

①下記のホームページからの申込みが便利です。
泉佐野市ふるさと納税サイト「ふるさとチョイス」
<http://www.furusato-tax.jp/japan/prefecture/27213>

②クレジットカードで決済できます。
申込みと決済が同時に行えます。



病院ふるさと納税の概要

- ①病院を応援する目的で、みなさまから寄附を募集しています。
- ②15分野のプロジェクトのうち、**メディカルプロジェクト**を選んでください。
- ③いただいた貴重な寄附は、病院施設の充実など、医療環境の改善に活用させていただきます。
- ④もちろんお礼の品は、ええもん400種以上の中から選べます。



●お問い合わせ先

【ふるさと納税に関すること】
泉佐野市長公室政策推進課(阪上、木ノ元)
TEL: 072-463-1212(内線2431~2432)

【お礼品に関すること】
泉佐野ふるさと納税お礼品事務局
TEL: 072-463-3977

編集後記

編集委員(教育研修企画調整監) 坂下 恵治

地方独立行政法人りんくう総合医療センターの広報誌「NICE SMILE」を、今号も発刊させていただきました。発刊に際し、各方面よりご協力いただきました皆様には心より感謝申し上げます。

りんくう総合医療センターの教育研修棟は、当センターの駐車場敷地内に建つ三階建ての建物です。三階は会議スペースとなっており、円卓がある特別会議室と三室の会議室があり、最大で315名まで収容できる大会議室として利用できます。二階は泉州南部卒後臨床シミュレーションセンター

として、各種の研修用シミュレーターや研修機材をそろえ、各部門が策定した研修プログラムに準拠して円滑に利用していただける環境を用意しています。

教育研修棟では平成27年2月に開設して以来、多数のイベントや各種研修およびコースの開催を企画していただき、この一年半の間に病院内外を問わず多くの方々にご利用いただきました。今後も皆様が快適に、円滑に利用していただけるよう準備してお待ちしております。